



「大逆事件」で刑死した禅僧が、いま問うているもの

明治43年「大逆事件」に連座し、37歳で刑死した禅僧内山愚童。その著作や書簡から仏教者としての実像に光を当てる。愚童は明治期の国家・戦争・貧富等をどう捉え、何を訴えたのか。明治維新から150年、時代の先を歩んだ一禅者の思想と行動がいま明かされる。

〈大逆事件〉と禅僧内山愚童の抵抗 眞田芳憲：著 佼成出版社
四六判並製 240頁 2018年刊 ISBN:9784333027767 2,200円



突如その男の内なる「獣」が身をもたげ、目をさました。

素直で優しくも、体にも心にもどこか鈍重なところがある歯科医・マクティークが、妻を殺してしまい、「死の谷」へ逃れる。彼の中の獣性は本能なのか。人は宿命から逃れることはできないのか。19世紀末のサンフランシスコを舞台にしたノワール小説の先駆。

マクティーク——サンフランシスコの物語
フランク・ノリス：著 高野泰志：訳 幻戯書房
四六変型上製 552頁 2019年刊 ISBN:9784864881784 4,400円



ダークなパーソナリティの明るい未来(?)を展開する本格的な研究書

自己愛、サイコパス、マキャベリアニズムというこれまでの典型的な視点を超えて、何がダークなパーソナリティ特性を構成するのか、ポジティブと捉えられる特性の影の側面にも焦点を当てた、パーソナリティのダークサイドの最新研究を網羅的に紹介した決定版。

パーソナリティのダークサイド
——社会・人格・臨床心理学による科学と実践
ヴァージル・ジーグラール・ヒル、デヴィッド・K・マーカス：編
下司忠大、阿部晋吾、小塩真司：監訳 福村出版
A5判上製 432頁 2021年刊 ISBN:9784571240898 7,920円

*価格は10%税込です

出版社クイズ

なんという名前の出版社かわかりますか？

- ①1940年太平洋戦争前夜の創業。日本文化のために岩波書店に続けと文芸出版社を志す。
- ②終戦翌年の1月、総合雑誌「展望」を創刊。5万部を完売し好調な再スタートを切る。
- ③『人間失格』のベストセラーが出るも、その後は負債の蟻地獄。1953年に累計1300万部となる文学全集を出して起死回生する。以後も様々な難局を乗り越えて今に至る。
- ④現社長は杖道（古武道）五段の猛者。文豪ストレイドッグスより前に、文豪をカジュアルに売り出す文庫シリーズを出したことがちょっと自慢。

*クイズの答えは次号(11号)=梓会加盟出版社を紹介してゆきます

前号のクイズのお答え

歴史書の専門出版社

吉川弘文館

考古学から近現代まで、日本歴史を根幹に、隣接諸分野に及ぶ、出版活動を行っています。事辞典などのレファレンス図書から、最新の研究成果を分かりやすく解説した入門書まで。それぞれの分野の学問の進展に呼応し、「書きかえられる歴史」に対する読者の強い要望に応え得る、魅力ある歴史書の刊行を目指しています。
鎌倉～戦国の武家の対立軸から迫る『対決の東国史』（全7巻）、アイヌの文化・暮らしがわかるはじめての総合辞典『アイヌ文化史辞典』などご注目ください。
引き続き、変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い致します。



梓会 図書館クラブ 通信

Azusa-kai Library Club



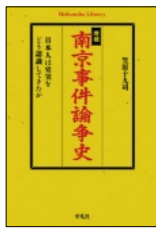
図書館は本の森。出版梓会は事典から絵本までユニークな本を丁寧に作る出版社の集まりです。この葉では毎回テーマを決めて、読書の愉しみを、ひとりの時間を極上にしてくれるお宝本を、こっそりお教えします

きれいはいきたくない、きたないはきれい。
今回のテーマは、
「人類の暗黒面によろこそ」です。
人間と悪について考えてみます。



2022年10号
出版梓会
データダウンロードはこちら⇒





いまだ論争が続く南京事件 否定派の論拠のトリックとは？

「南京事件」は明白な史実であるにもかかわらず、日本では否定派の存在によって「論争」が続けられてきた。その経過を事件発生時から現在まで丹念にたどることで、否定派の論拠の問題点とトリックを衝き、「論争」を生む日本人の歴史認識を問う。親本刊行後の10年を増補。

増補 南京事件論争史 笠原十九司：著 平凡社
B 6 変型並製 374頁 2018年刊 ISBN:9784582768763 1,650円



「ジェノサイドは近代的権力の夢であった」のか？

ナチズムは歴史上唯一の出来事ではなく、近代に固有の、これからもくり返される、ありふれた結末ではないのか？ ナチス統治体制の淵源をヨーロッパ近代の歴史に探り、その正体を暴き出すことで、権力の暴走と不法支配再来阻止のための批判的視座を確立する。

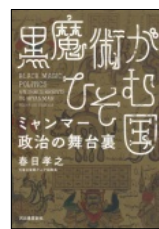
ナチズムは夢か 南利明：著 勁草書房
A 5 判上製 1,024頁 2016年刊
ISBN:9784326200566 13,200円



犯罪を通して、社会と人間の深い本質をみつめるために

ボニーとクライドや大列車強盗から、切り裂きジャック、リンカーンやケネディの暗殺まで、世界の犯罪史に残る101の事件を取り上げ、オールカラーの写真と図解で詳説。臨場感あふれる各項目の記述は、まるでミステリー小説のように読み進めることができる。

犯罪学大図鑑 DK社：編 宮脇孝雄、遠藤裕子、大野晶子：訳
三省堂 B 5 変型上製 352頁 2019年刊
ISBN:9784385162393 4,620円



謎多きミャンマーの現代政治の深層に迫る

なぜ、国家元首の誕生日は最高機密なのか？——日本では「敬虔な仏教国」として知られるミャンマーの謎多き現代政治を、当地にいきづく「古い文化」を梃子にしてスリリングに描くノンフィクション。ミャンマーのことを本当に知りたい人にお薦めの一冊。

黒魔術がひそむ国——ミャンマー政治の舞台裏
春日孝之：著 河出書房新社
四六変型並製 288頁 2020年刊 ISBN:9784309249797 2,200円



地獄って一体どんなところ？ 死後の世界を見てみよう。

人は死んだら長い旅に出なければなりません。この本は、三途の川や八大地獄のこと、六道のあれこれなど、死後行くことになる各所を紹介するガイドブックです。今からこの本を読んでおけば、死んだ後も迷うことはありません。地獄と死後の世界へご案内します！

地獄の歩き方 田村正彦：監修 小野崎理香、水野ぶりん：絵
金の星社 A 5 判並製 96頁 2019年刊
ISBN:9784323074467 1,320円



淡々と描かれる、ドイツ人とユダヤ人音楽隊の極限での攻防

「音楽と人間に対する眼差しを一変させるであろう必読の一冊！」と五木寛之氏が絶賛。淡々とした筆致で、悲惨な場面を横目で見ながらの収容所での日常生活と、ドイツ兵がいかに音楽を必要としたか、収容者がなぜ音楽によって生き延びたかが語られてゆく。

アウシュヴィッツの音楽隊
シモン・ラックス、ルネ・クーディー：著 大久保喬樹：訳
音楽之友社 四六判並製 192頁 2009年刊
ISBN:9784276214514 1,980円



NY公共図書館での講演書籍化！ 解説 中沢新一（もキレッキレ）

ニューヨーク公共図書館主催の講演会で、チベット仏教の僧侶から俗世に戻り、西洋を代表するチベット仏教学者になったサーマン教授が「怒り」について縦横に語った記録。憎悪にからめとられた怒りについても言及あり。戦争と感染症の時代にこそ読んでほしい一書。

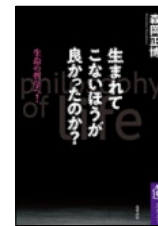
チベット仏教が教える怒りの手放し方
ロバート・A・F・サーマン：著 屋代通子：訳 築地書館
四六判並製 204頁 2011年刊 ISBN:9784806714217 1,650円



より効果的に苦痛を与える技術 を考えつづけてきた人類の歴史

人に身体的または精神的苦痛を故意に与える行為、拷問。そのために用いられる刑具が洗練されるにつれ拷問はますます巧妙になってゆく。古代より現代にいたる世界中の拷問と刑具の数々を、未公開の貴重な図版とともに一挙公開。ここまで残酷になってしまう人間の本质を考える。

図説 拷問と刑具の歴史 マイケル・ケリガン：著 岡本千晶：訳
原書房 A 5 変型並製 300頁 2002年刊
ISBN:9784562035526 3,080円



注目を集める「反出生主義」 その超克を図った渾身作！

「生まれてこなければよかった」という「誕生否定」の思想は、人類2500年の歴史を持つ。古代から現代まで、ヨーロッパからアジアまでを視野に収め、この系譜に連なる文学、哲学思想を徹底考察。反出生主義の全体像を示し、その乗り越えを図った日本初の書！

生まれてこないほうが良かったのか？——生命の哲学へ！
森岡正博：著 筑摩書房
四六判並製 368頁 2020年刊 ISBN:9784480017154 1,980円

内側に折る

内側に折る



ウクライナ国歌「ウクライナは滅びず」を少女が歌うのを聞いた。きれいな曲!!「誇り高きコサツクの末裔」という一節も。コサツクって自由人という意味もあるそう。